中ノ川山一里塚 (A-4)

秋掛引地峠にあり、藩政初期に萩ー本郷ー安芸に通じる広島往還道に設置された一つ。

引地峠処刑場跡 (A-4)

慶長14年(1609)から明治3年(1870)まで処刑された人たちのうち確認できるのは28人もおり、江戸時代の圧政の証といえる。

高森城址 (C-6)

宝徳元年(1450)ごろ、大内氏の家臣 岐志通明によって築されたといわれる。折敷畑の合戦で、岐志一族の宮川房長が毛利軍に敗れた後、毛利の武将坂新五左右衛門が入り、防長攻略の足場となった。

中村観音堂 (C-7)

県内最古の養和元年(1181)大般若経六百帖を唐櫃3合に納め安置。「ねんぶつ行事」が約600年続き保存されてきた。

餓死者三百人之墓 (B-7)

下畑東大寺にあり享保17年(1732)の飢饉で下畑村の人口の3分の1にあたる304人もの餓死者がでた。後年生き残った村人が、供養塔を建て墓石を持ち寄った。

北門団屯所跡(栄福寺) (E-5)

四境の役の際、北門団の屯所として安芸の国境を望む長州軍の拠点の一つとなった。

積石塚 (D-8)

一見、古墳の形と横穴式石室の入り口のような石組みがあり「積石塚の古墳」と考えられていたが、発掘調査の結果18世紀後半の供養塚の可能性が高いと判断された。

歴史民俗資料館 (B-9)

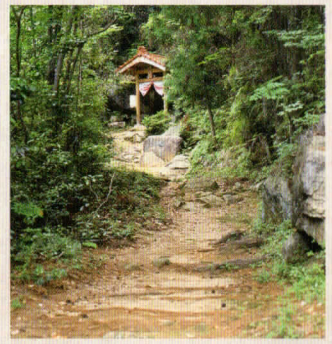
昭和61年4月に開館、文化財が三千有余点保存されている。又、多岐にわたる資料も保存されている。

撫育役場跡(東林寺) (D-8)

元治元年(1864)吉川経幹が撫育役場を設置、撫育方に玉乃東平を任命し、地域の更生をはかった。維新後、東平は初代大審院長になった。

大三郎八十八ヶ所 (E-6)

キャンプ場近くの大三郎に「大三郎新四国八十八カ所霊場」がある。開山改修年月の明確なことと、御本尊の並び方が四国と合致していること、寄進者全員の氏名・住所がはっきりしていることなどで非常に珍しい。

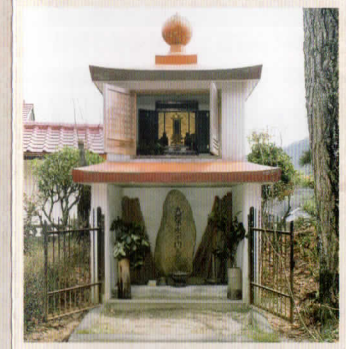


大師山八十八ヶ所 (E-7)

岸根・白滝山の隣りにあり、この山を「お大師山」と呼んで親しまれている。眺望がすばらしく、狭い岩間のくぐり抜けもある。

東大寺 宝篋印塔 (B-7)

南北朝時代と考えられる、大変優れた作品、他にも志谷・柿の木原にも同時代と見られる作品が残されている。



九郎・半左衛門之墓 (E-5)

貞享3年(1686年)の早魃で、名主の半左衛門とその子九郎衛門が農民の苦衷を藩主に直訴した。死一等を許す使者が間に合わず、刑は執行された。

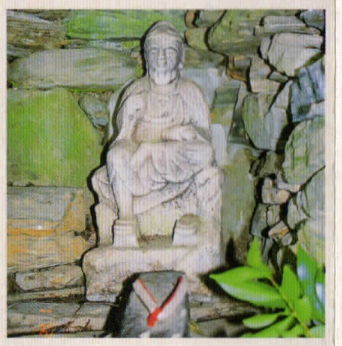
絹本着色 十六善神像

山口県指定文化財 (D-7)

室町時代の文安5年(1448)の制作で、大陸の画法の影響を強く受けている。明治初年の廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)の際、瀬戸の内の各戸が持ち回りをして保存した。

芥川龍之介父子の碑 (C-7)

芥川龍之介の父、新原敏三が生まれ育った地。屋敷跡、縁故の墓があり、父子の石碑も真教寺境内に建立されている。碑文の「本是山中人(もとこれさんちゅうのひと)」は羅生門の出版記念祝賀会の時に書いた物。後年、彼が父の出身地を偲んで書いた物とされる。



下駄履き観音 (C-6)

高森城址の小さな祠に祀られている。一説には役の行者と言われている。

生見の鉄燈籠 山口県指定文化財 (C-7)

天文15年(1546)生見の豪族　中村安堅が先祖菩提のため、廿日市の鋳物師、綱家に鋳造させ建立したもの。原形を完全に保持している山口県最古の鉄燈籠。

アンモナイト化石 (E-8)

昭和55年2月大根川橋脚工事中に、直径約50cmに及ぶアンモナイトの化石の一部が発見された。中生代ジュラ紀後期(約1億4000万年前)のものとされ、この付近の玖珂層群の砂岩層がジュラ紀の地層と確認された。

エントモノチス化石 (B-9)

昭和32年、向畑で林道工事中に発見された。約2億年前の中生代三畳紀に生息した二枚貝であり、新種(エントモノチス・ムカイハタエンシス)も発見されている。

歴史を歩く 岩国往来

岩国往来とは、岩国市本郷町と、美和町阿賀(あか)、生見(いきみ)、渋前(しぶくま)、日宛(ひなた)、長谷、旧岩国市多田、錦見及び今津を結ぶ約30kmの街道。1600年、関ヶ原の戦い後、初代岩国藩主吉川広家の家族・家臣一行が、出雲国(島根県)富田城から石州路を通り、山代の本郷を経て、松尾峠を越えて岩国に来た。また1630年代には、萩藩主や役人が岩国藩を視察するために整備した歴史的な道である。

西照寺と代官所門扉

当寺には毛利輝元夫婦の位牌がある。山門は代官所門を1921年移築した。

本郷町歴史民俗資料館

山代代官所の御門長屋を模した資料館で、和紙や米作りなどの民具を展示している。

釜屋一里塚跡

山代街道と岩国往来の分岐点で、塚は1951年のルース台風で流失し、今は残っていない。

阿賀駕籠立場跡

御国廻行程記によれば、阿賀側の雲照寺峠の登り口にあった。地元の検を使って、2009年3月ボランティアにより復元された。

街道松

江戸時代街道沿いに松が沢山植えられていたが、現在この1本だけ残っている。

郷の一里塚跡

地下上申絵図によれば、この付近にあったと推定される。地元郷の石を用いて、2008年11月に地元のボランティアにより復元された。

志谷一里塚跡

径約4m、高さ約1.3mの土饅頭の塚(釜屋一里塚まで2里、多田一里塚まで3里)。

志谷駕籠立場跡

御国廻行程記によれば、破魔射場峠の志谷の登り口にあった。地元の検を使って、2008年3月ボランティアにより復元された。

目舞坂一里塚

目舞坂峠中間にある石組みの一里塚。径約2m、高さ1.8m。

長谷一里塚

街道上に基礎部分の石組みが残っている。径約1.4mある。

松尾峠茶屋跡

美和町長谷と旧岩国市多田の境にある岩国往来で一番の難所。松尾峠には駕籠立場と御茶屋があったが今は残っていない。

弥山堂古市大鳥居

旧山陽道と岩国往来の分岐点に1792年に建立。側に常夜燈が建っている。

多田一里塚跡

旧山陽道の一里塚で今は残っていない。赤間関35里、小瀬川1里、釜屋5里。

多田の渡り場跡

多田より岩国城側の千石原に渡し船があったが、今は残っていない。多田の渡り場・せんだんの木を祈念し2009年3月に石碑を建立した。